

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172101095		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム江並「福寿苑」		
所在地	岐阜県大垣市外淵4丁目97番地1		
自己評価作成日	平成25年12月9日	評価結果市町村受理日	平成26年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/1/index.php?act=on_kouhyou_detai_2013_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2172101095-00&PrEfCd=21&VerSiOnCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成26年1月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様・ご家族様共に安心して過ごして頂ける終身対応型の施設です。認知症があっても、最期まで「人として生きる姿」を保てるよう、『利用者様本位「できる力で生き活きと!」』を施設理念とし、スタッフ一同支援させて頂いています。特浴室が設けてあり、看護体制も確立している為、重度の方も受け入れ可能になっています。現在は介護度の高い方が多く、活動に制限がありますが、毎月、音楽療法を行い、懐かしい歌や季節を感じられる歌に触れて頂き、少しでも楽しい時間を過ごしてもらえるようにしています。また、近隣にある喫茶店やマクドナルド等に出掛けたり、散歩に行ったり、外気に触れ気分転換できるようにしています。運営推進会議には、消防署や交番の方にも参加して頂いたり、自治会や保育園の行事に参加させて頂き、地域との関わりを大切にしたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、「利用者が地域の中で生き生きと暮らす」ことを模索し、検討を重ねながら笑顔が欠かさずに取り組んでいる。また、利用者の出来る事を見つけ出し、利用者の力を活かす為の支援に努めている。介助時間・人員等の負担増にもなるが、利用者や家族の喜びが自分の達成感となり、サービスの質の向上に繋げる意欲としている。食事や入浴などでは、時間をかけ利用者一人ひとりのペースに合わせた支援をしている。体験学習の受け入れや地域の飲食店へ出かけたり、地域行事に積極的に参加して事業所の理解を深めると共に地域交流にも努めている。協力医の往診も可能であり、看護体制も確立して重度の方の受け入れや看取り体制もあり利用者・家族の安心にも繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域の中で、その方らしい生活を支援させて頂くために『利用者様本位』できる力で生き活きと！！笑顔あふれる江並福寿苑』を理念とし、全スタッフで取り組んでいます。毎月の全体会議で唱和し、確認しています。	職員間で話し合い事業所独自の理念を作り、毎月の会議で理念に沿った支援が出来るか振り返っている。利用者の出来る力を活かし、地域の中で暮らし続けられるよう、笑顔で取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣にある中学校や保育園の運動会・自治会のお祭りに参加させて頂いたり、飲食店にも出かけています。また、天候の良い日は、近くの神社まで散歩し、挨拶を交わし、日常的に交流をするよう心掛けています。	散歩や近隣の飲食店に出かけて地域住民と話す機会を作っている。中学生から挨拶や声をかけてもらうこともある。保育園や中学校・地域行事に利用者に参加して、事業所の理解を深め交流をするように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校生のインターンシップを引き受けています。運営推進会議では、自治会長・民生委員等地域の方やご家族様に活動情報を報告すると共に、認知症に対する理解を呼び掛けています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事故報告等を含め、事業所の実情を報告し、全参加者よりご意見を聞き、意見交換しています。また、その議事録等は、全利用者様のご家族にも郵送させて頂いています。指摘事項によっては、次回に改善した内容を報告しています。	利用者の状況や事業所の実情など報告している。事故報告には改善の為の積極的な意見があり、職員と話し合っ「薬の飲み忘れ防止月間」を展開するなど改善に繋げている。隣接する事業所との合同運営推進会議である。	合同会議の他に単独で話し合う時間を設けるなど、利用者の個人情報配慮と、利用者や家族が意見や要望など言いやすいような取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市の情報や助言を得ています。事故報告等に市役所に出かける際は、担当者の方に、最近の暮らしぶりをお伝えし、また電話で連絡を取る時もあり、協力関係を築いています。	市主催の会議や研修には積極的に参加して、情報を得て連携をとるようにしている。空き情報や事業所の実情などは電話で連絡し合い相談しやすい関係を築いている。また、担当者の異動時も情報の共有が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は、国道に面している立地条件から、内側からは番号ロックさせてもらっている。全スタッフは、全体会議で身体拘束の内容や弊害を理解し、外出希望者には、声かけや散歩等の対応をし、安全面に配慮しながら、自由な暮らしを支えるようにしています。	事業所の立地条件から玄関は施錠されているが、頻りに外出の機会を作ったり、気配を察知して言葉掛けや外気の触れる場所に出たりしている。研修会を行い、拘束の弊害や内容を学び、車椅子や介護度の高い利用者にも散歩や外出が出来るように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	全体会議後に虐待に関する勉強会をし、知識を再確認する機会を持ち、共通の認識がもてるようにしている。 入浴時には、身体を確認する事で、虐待を見逃すことのないよう努めている。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月に一度の全体会議後に勉強会を行い、全スタッフが再認識できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に事業所のケアに対する姿勢を説明し、了承を得ている。重度化や看取りに対する指針、医療連携体制や料金体制、また契約解除に至る対応等、そしてその後の支援にも納得が得られるよう話をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様に手紙や江並新聞、訪問時や運営推進会議で常に語りかけ、何でも話をしてもらえよう環境作りに努めています。意見やご要望等は、全体会議で話し合い、反映している。毎年、ご家族様へアンケートを実施させて頂き、その結果についても前向きに活かすようにしている。	利用者の暮らしぶりを知らせる新聞や居室担当職員の手書きの手紙を送って近況を報告し、訪問時や電話で意見を聞いている。家族アンケートからも要望や意見を聞き、気分転換や外出支援などの要望に応えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や申し送り時、個別面談で意見交換を行う機会を多くしている。日頃からコミュニケーションを図るよう心掛け、問いかけたり、聞き出したりするようにしている。特に、ご利用者様へのダメージを最小にする為の配慮をしている。	管理者は、日頃から職員の意見や提案を聞くよう心掛け、全体会議や個別面談などでも聞いている。利用者個々の状況を職員と話し合いながら、重度の方の外出や入浴などの支援のため勤務のシフト替えを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の体調や家庭環境に合わせた労働時間になっている。本人の勤務希望をできる限り可能にし、働きやすいようにしている。スタッフのモチベーションが保たれるよう研修案内をいつでも閲覧できる場所に置き、学べる環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内及び報告書はいつでも閲覧できるようになっている。 資格取得も呼び掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で講師をお招きし、同じ系列のスタッフが集まり、勉強会を実施している。 他の事業所の取り組みについて、良い事は施設の活動に取り入れ、質の向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様と共に施設内を見学して頂き、雰囲気を感じてもらいようにし、安心して頂いた上で入所の申し込みをして頂くようにしている。事前面接などで、ご本人様やご家族様より生活の状況や今後の生活に対する思いを十分にお聞きし、安心して暮らして頂ける環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族様の苦労や、今までのサービスの利用状況や経緯について、ゆっくり話を聞くようにしている。話を聞く事で、ご家族様が求めておられる事を理解し、事業所としてどのような対応ができるのか事前に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	すぐに入所と考えるのではなく、担当されておられるケアマネージャーの方より話を聞き相談させて頂いたり、ご本人様やご家族様が何に困っていらっしゃるかを明確にした上で、ニーズを確認してからの契約としている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全スタッフは、人生の先輩であるご利用者様に色々な事を学ばせて頂いたり、励ましを頂いたりして、働く者としての元気や意欲につながっている。お互いが協働しながら穏やかな生活ができるように場面作りや声かけをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の状況をご家族様にお話しし、情報共有に努め、ご本人様と一緒に支える為に、ご家族様と同じような思いで支援しながら、信頼関係をより深く築けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の協力を得て、なじみの場所へ行かれたり、なじみの方が訪問されたりして下さっています。場所や関係が途切れないよう、気持ちよく外出してもらえよう、また訪問の際は、ゆったりお話しできる環境作りに努めている。	家族の協力を得ながら法事や墓参り・馴染みの喫茶店や外食などに出かけている。知人や同僚の訪問時には、お茶やコーヒーを出して、ゆっくり過ごしてもらい関係の継続や再訪をお願いしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり、相談に乗ったり、みんなで楽しく過ごす事ができる時間の場面作りをする等、ご利用者様同士の関係がうまくいよう、良き調整役になれるよう、スタッフ間で情報共有をし、注意深く見守るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまで施設で過ごされた、ご利用者様の生活リズムの情報を詳細に提供し、他施設や病院等へ変わられても、混乱が少しでも軽減できるよう、きめ細かい連携を心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、言動・行動・表情から希望や意向を把握している。また、ご家族様から得た情報は、申し送りや業務日誌に記入して、全スタッフで共有している。	朝の挨拶で利用者のその日の気分や思いを把握したり、話しや声かけすることで安心され会話の中から思いを見つけることもある。困難な人にも会話に時間をかけ、行動や表情から知るようになっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や、これまで担当されてみえたケアマネジャーより、今までの暮らし方や価値観等をよくお聞きし、大切にされていた物等は可能な限りお持ち頂き、安心して過ごして頂けるような環境作りに努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録や会話の中から、小さな心身状態の変化も見逃さないようにしている。毎月の全体会議後にケースカンファレンスを行い、スタッフ間で検討事項を話し合い、現状を全スタッフが把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全スタッフは、日々のかかわりの中での気づきを、毎月のモニタリングやカンファレンスの中で、意見交換を行い、介護計画を見直している。ご利用者様・ご家族様の希望やかかりつけ医より指示がある場合は介護計画に反映している。	担当職員の気づきをもとに全職員が、ユニット会議で話し合い利用者・家族の要望を取り入れながら介護計画を作成している。医師の意見や毎月のモニタリングから状態の変化に合わせ見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さな事でも記録に残し、申し送りノートや連絡ノートを活用する事により、情報を共有できるようにしている。 プラン評価に関しては、ケースカンファレンスで話し合った内容を基に、担当スタッフが記入をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の状況に応じて、通院の送迎や衣類・介護用品の購入、また、行政等への申請に関する助言等、個々のニーズに柔軟に対応し、満足度を高めるようにしている。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の場を活用し、市、自治会長、民生委員、消防署、交番の方より情報を頂いたり、日頃より何かあった場合の協力関係をお願いしている。地域の中学校・保育園等にも参加を呼び掛け、地域の資源を活用できるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医の受診を勧めているが協力医に変わられる方が多い。月に2回の往診があり、状態を把握してもらっている為、異常時は、報告し、指示を受け、適切な医療が受けられるようになっている。	利用者・家族納得の上協力医に変更され訪問診療を受けている。専門医や緊急時の受診は、家族が付き添うが、職員が同行することもある。看護師の24時間オンコール体制や協力医の往診もあり利用者・家族が安心出来る。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護スタッフを配置しており、「いつもと違うような」という些細な変化でも報告し、小さな状態変化も見逃さないようにしている。看護師は24時間オンコール体制となっており、適切な看護や受診ができるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状況に応じて、看護師がお見舞いに行き、その際、担当の看護師より情報を得ています。また病院側へも施設に過ごしてみえた様子をお伝えし、ご利用様が安心して治療できるような関係作りをしています。ご家族様とも情報交換に努め、速やかな退院ができるようになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、重度化や終末期においての話をし、希望を確認し同意書をとっている。異常時や状態に変化があった場合は、その都度ご家族様に連絡し、意向を確認。その旨を看護師が協力医に相談し調整を行っている。	入居時に事業所の方針を説明して同意を得ている。状況の変化に応じて再度説明し確認を取り、家族・医師・全職員が連携しながら支援をしている。職員同士助け合って最期まで関わることもあり、家族からの感謝の言葉が職員の励みになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてのマニュアル、応急処置や救急車が到着するまでの対応についての勉強会を行い、落ち着いて行動できるようそなえている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜間を想定した訓練を消防署の協力を得て行い、訓練後は全スタッフで課題を話し合っている。運営推進会議の場を活用し、自治会への働きかけを行い、地域との協力体制を築く努力をしている。二階の階段に災害時用の物品を用意し、定期的に点検を行い災害に備えている。	隣接事業所との合同訓練を行い、地域住民の参加を得て夜間想定訓練を予定している。避難用のスロープも設置されているが、2・3階の利用者の避難方法の習熟と地域住民との協力体制がさらに必要である。	2・3階からの避難方法、それに必要な人材確保・地域とのさらなる協力体制づくりなど、利用者の安全な避難誘導の訓練を繰り返し行われることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時、必要な方については、アコーディオンカーテンをほんのわずか開けさせて頂き、見守りを行なうようにしている。尚、見守りについては、トイレ内で行なうのではなく外で行い、その方の尊厳やプライバシーの保護に努め、居室扉の透明ガラス部分は、カーテンが取り付けられている。	名前を呼んで声をかけ、言葉遣いや対応に気を付けている。利用者の出来ることには、時間がかかっても見守ることで利用者の自尊心を傷つけないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる方についてはもちろんですが、難しい方に対しても、普段から疑問系での声かけをし、表情等で気持ちを汲み取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時刻になっても眠られている方がみえる時は、生活のリズムが崩れない程度に時間をずらし、食べて頂く等し、ご本人様のコンディションに合わせ、支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご要望が伺える方には伺い、なるべくその方のスタイルを保てるようにしている。伺うのが難しい方に関しては、ご家族様やご友人の方に、お尋ねする等し、その人らしさを保てるように支援させて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の身体状況に合わせ、主食・副食共に形態を変えて、召し上がってもらっています。ご利用者様とできる事の中で、その方に合わせて、食器拭きや片づけ等を一緒に行っています。	食材の買い物に利用者とかけたり、準備や後片付けを一緒にしている。利用者の好みを献立に取り入れ状態に合わせた食事形態に調理している。介助が必要な利用者が多く、時間をかけ個々のペースに合わせた支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分でむせ込まれる方等、飲み込みが困難になられた方には、とろみをつけさせてもらったり、主食をお粥・副食をキザミやペーストにさせて頂いたり、その方にあつた対応をさせて頂いている。なるべく、経口から摂取して頂けるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身でできる方には声かけをし、困難な方に関しては、口腔ケア用スポンジ等を使用し、介助を行い、清潔を保てるようにしています。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを理解した上で、その方の行動等に応じて、声かけや誘導をしています。重度の方でも、立つ事ができるのであれば、二人で介助させて頂く等し、少しでもトイレで排泄して頂けるようにしています。	利用者の様子や習慣から声かけをしてトイレ誘導している。立位が可能な限り二人介助でトイレで排泄出来るようにしている。夜間は時間を見計らってトイレ誘導やポータブルトイレを使用して自立にむけた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご利用者様の状態に応じて、牛乳やバナナ等を召し上げて頂き、また、水分量が足りていないと思われる方には、声をかけ、水分を取って頂くようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一般浴と特浴室があり、身体状況に合わせて入浴して頂いています。入浴順や湯温等、一人一人に合わせた配慮をし、入浴を拒む方には声かけをする方法やタイミング、スタッフを交代する等し、気持ちよく入浴できるよう支援している。	入浴日を限定せず、いつでも入浴出来るようにしている。利用者の状況や気分に合わせ、声かけや入浴順序を考慮しながら支援している。機械浴の導入で身体状況に合わせ利用者がゆったりと入浴することが出来る。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や体調に合わせ、可能な限りいつでも休んで頂けるようにしています。希望があれば好みの寝具を持ってきてもらい、安眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のご利用者様が服用しておられる薬剤の冊子が、いつでも確認できるように置いてあり、薬の内容や形態、副作用や注意点が再確認できる。変更があった場合は、申し送りや介護記録に必ず記載し、誤薬のないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	スタッフと一緒に洗濯物を干したり、たたんだり、また食器を拭いてもらい片付けたりと日常生活の中で役割を持ってもらえるよう心がけている。テレビを見るだけでなく、散歩や音楽療法など楽しみと思ってもらえるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所のお祭りや中学校・保育園の運動会等に参加し、近隣の人々と交流を深めている。また、外食等の計画をし、ご利用者様の心身状況に合わせた外出の機会を作るようにしている。	日常的に近くの神社への参拝や散歩・保育園や中学校の屋外活動見学に出かけている。利用者の希望に添ってハンバーガーショップや回転すし・買い物に出かけたり、季節や行事に合わせて桜見や祭り見学・運動会などにも出かけられるよう支援している。	

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持たないと不安になられる方に関しては、ご家族様の同意の下、ご自身で所持して頂いている。 買物は、ご要望があれば、スタッフが購入させてもらっていますが、必要に応じて、一緒に買物に行く場合もあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様のご希望があれば、ご家族様にご連絡し、同意を得た上で、電話のやり取りができるようになっています。 手紙に関しても同様で、こちらに届いた私信はお渡ししています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにご利用者様の席以外に、畳敷きのスペースやソファを置き、いろんな場所で会話を楽しめるように工夫している。 また、生活感や季節を感じられるように配置や飾り付けを行っている。	陽射しが入る明るいリビングで会話をしたり、キッチンが見える場所を自分の指定席として調理の様子を見たりして思い思いに過ごしている。掘りコタツの和室コーナーがありくつろぐことも出来る。花や行事の写真を飾って季節感を採り入れるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々のご利用者様の生活習慣を把握し、日々落ち着いて過ごして頂けるよう工夫している。 ベランダ側にソファを設置し、一人もしくは数人で過ごせるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様の身体状況や好みに合わせて選択できるようになっている。 オムツを使用されてみえる方には、目に付きにくいよう配慮している。 居室扉のガラス部分には、カーテンをつけ、個室空間を保つようにしている。	入居時に使い慣れた物を持参してもらうよう説明し、整理棚・鏡台・家族写真・長寿祝い の表彰状などを置いている。オムツ入れの箱を化粧箱に仕立て上げオムツと分からないような配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様の残存能力をいかし、行動制限してしまわぬよう安全な環境づくりに努めている。 また、不安や混乱がある場合は、速やかに対象物を移動し撤去するようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172101095		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム江並「福寿苑」		
所在地	岐阜県大垣市外淵4丁目97番地1		
自己評価作成日	平成25年12月9日	評価結果市町村受理日	平成26年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_1_2013_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2172101095-00&PrEfCd=21&Versi_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成26年1月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域の中で、その方らしい生活ができるよう支援させて頂く為に、理念の『利用者様本位「できる力で生き活きと!!」笑顔あふれる江並福寿苑』を毎月の全体会議で唱和し、全スタッフ取り組んでいます。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地元のお祭りに参加させて頂いたり、近隣の中学校や保育園の運動会に参加させて頂き、地域の方と交流できる機会が持てるようにしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校生のインターンシップを受け入れています。運営推進会議では自治会長・民生委員等地域の方やご家族様に活動状況を報告すると共に、認知症の理解を呼び掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長・民生委員・消防や交番の方等、他方面の方に参加して頂き、会議を行っています。会議で出たご意見は、毎月の全体会議の場で検討し、サービスの向上に努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議時に市の職員の方にインシデントやアクシデント等の報告をさせて頂き、ご意見やご助言を頂いている。市が主催する研修会にできる限り参加し、情報交換に努めています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	国道に面している立地上の問題から、生命を最優先し、各階の玄関を施錠させて頂いています。鍵をかけるという弊害は各スタッフが理解しており、外へ出たいとおっしゃられる方に関しては、その都度お話を聞いたり、散歩に出かけたりしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議後に虐待に関する勉強会をし、知識を再確認する機会を持ち、共通の認識がもてるようにしている。 入浴時には、身体を確認する事で、虐待を見逃すことのないよう努めている。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月に一度の全体会議後に勉強会を行い、全スタッフが再認識できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に事業所のケアに対する姿勢を説明し、了承を得ている。重度化や看取りに対する指針、医療連携体制や料金体制、また契約解除に至る対応等、そしてその後の支援にも納得が得られるよう話をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様に手紙や江並新聞、訪問時や運営推進会議で常に語りかけ、何でも話をしてもらえよう環境作りに努めています。意見やご要望等は、全体会議で話し合い、反映している。毎年、ご家族様へアンケートを実施させて頂き、その結果についても前向きに活かすようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や申し送り時、個別面談で意見交換を行う機会を多くしている。日頃からコミュニケーションを図るよう心掛け、問いかけたり、聞き出したりするようにしている。特に、ご利用者様へのダメージを最小にする為の配慮をしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の体調や家庭環境に合わせた労働時間になっている。本人の勤務希望をできる限り可能にし、働きやすいようにしている。スタッフのモチベーションが保たれるよう研修案内をいつでも閲覧できる場所に置き、学べる環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内及び報告書はいつでも閲覧できるようになっている。 資格取得も呼び掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で講師をお招きし、同じ系列のスタッフが集まり、勉強会を実施している。 他の事業所の取り組みについて、良い事は施設の活動に取り入れ、質の向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様と共に施設内を見学して頂き、雰囲気を感じてもらいようにし、安心して頂いた上で入所の申し込みをして頂くようにしている。事前面接などで、ご本人様やご家族様より生活の状況や今後の生活に対する思いを十分にお聞きし、安心して暮らして頂ける環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族様の苦勞や、今までのサービスの利用状況や経緯について、ゆっくり話を聞くようにしている。話を聞く事で、ご家族様が求めている事を理解し、事業所としてどのような対応ができるのか事前に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	すぐに入所と考えるのではなく、担当されておられるケアマネージャーの方より話を聞き相談させて頂いたり、ご本人様やご家族様が何に困っていらっしゃるかを明確にした上で、ニーズを確認してからの契約としている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全スタッフは、人生の先輩であるご利用者様に色々な事を学ばせて頂いたり、励ましを頂いたりして、働く者としての元気や意欲につながっている。お互いが協働しながら穏やかな生活ができるように場面作りや声かけをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の状況をご家族様にお話し、情報共有に努め、ご本人様と一緒に支える為に、ご家族様と同じような思いで支援しながら、信頼関係をより深く築けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の協力を得て、なじみの場所へ行かれたり、なじみの方が訪問されたりして下さっています。場所や関係が途切れないよう、気持ちよく外出してもらえよう、また訪問の際は、ゆったりお話しできる環境作りに努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり、相談に乗ったり、みんなで楽しく過ごす事ができる時間の場面作りをする等、ご利用者様同士の関係がうまくいこう、良き調整役になれるよう、スタッフ間で情報共有をし、注意深く見守るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまで施設で過ごされた、ご利用者様の生活リズムの情報を詳細に提供し、他施設や病院等へ変わられても、混乱が少しでも軽減できるよう、きめ細かい連携を心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、言動・行動・表情から希望や意向を把握している。また、ご家族様から得た情報は、申し送りや業務日誌に記入して、全スタッフで共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や、これまで担当されてみえたケアマネジャーより、今までの暮らし方や価値観等をよくお聞きし、大切にされていた物等は可能な限りお持ち頂き、安心して過ごして頂けるような環境作りに努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録や会話の中から、小さな心身状態の変化も見逃さないようにしている。毎月の全体会議後にケースカンファレンスを行い、スタッフ間で検討事項を話し合い、現状を全スタッフが把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全スタッフは、日々のかかわりの中での気づきを、毎月のモニタリングやカンファレンスの中で、意見交換を行い、介護計画を見直している。ご利用者様・ご家族様の希望やかかりつけ医より指示がある場合は介護計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さな事でも記録に残し、申し送りノートや連絡ノートを活用する事により、情報を共有できるようにしている。 プラン評価に関しては、ケースカンファレンスで話し合った内容を基に、担当スタッフが記入をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の状況に応じて、通院の送迎や衣類・介護用品の購入、また、行政等への申請に関する助言等、個々のニーズに柔軟に対応し、満足度を高めるようにしている。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の場を活用し、市、自治会長、民生委員、消防署、交番の方より情報を頂いたり、日頃より何かあった場合の協力関係をお願いしている。地域の中学校・保育園等にも参加を呼び掛け、地域の資源を活用できるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医の受診を勧めているが協力医に変わられる方が多い。月に2回の往診があり、状態を把握してもらっている為、異常時は、報告し、指示を受け、適切な医療が受けられるようになっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護スタッフを配置しており、「いつもと違うような」という些細な変化でも報告し、小さな状態変化も見逃さないようにしている。看護師は24時間オンコール体制となっており、適切な看護や受診ができるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状況に応じて、看護師がお見舞いに行き、その際、担当の看護師より情報を得ています。また病院側へも施設に過ごしてみえた様子をお伝えし、ご利用者が安心して治療できるような関係作りをしています。ご家族様とも情報交換に努め、速やかな退院ができるようになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所であることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、経口摂取や自力での歩行が困難になられても、入所継続が可能であるという説明を行い、終身介護についての希望をお聞きし、同意書に署名をお願いしている。異常時や状態変化があった場合は、ご家族様・協力医の方針を確認し、施設看護師が調整を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個々のご利用者様の異常時指示書が作成しており、介護スタッフが落ち着いて対応できるようになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に一回はご利用者様と一緒に大きな避難訓練を行い、もう一回は夜間を想定した訓練を行っている。 2階階段の倉庫に、災害時用の物品を準備し、毎年確認をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各ご利用者様の居室の小窓にカーテンを取り付け、プライバシー保護に努めている。 ご利用者様の目線に合わせた声かけを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できる限り、複数のおやつを準備し、個々のご利用者様に選んで頂けるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の体調を一番に考え、危険のないよう、それぞれのご利用者様にあった対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に洗面台にて、髪を整えて頂いたり、温タオルを準備し、顔を拭いて頂いたりしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事やおやつ前のテーブル拭きは、ご利用者様にお願いしている。 お出した食事を「おいしいよ。」と言って下さる時は、必ずスタッフも感謝の言葉を伝えている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	10時・15時のおやつによっては牛乳・ココア・紅茶・スポーツ飲料等の水分200mlを飲んで頂いています。 食事はミキサー食の方でも、おやつ時はキザミで召し上がられる方もみえ、その方に合った食事形態でお出ししている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各ご利用者様の状態に合わせ、付き添うようにし、ご自身でできない部分を介助させて頂いています。 口腔内を清潔に保てるように、毎食後行っています。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のご利用者様の排泄サインを見逃さないように、見守りやトイレ誘導を行っています。トイレ介助時は、できる限りご自身でして頂けるよう声かけをしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルト、バナナ、牛乳等を使って、おやつや飲み物を準備し、できる限り食物で排便を促すようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一般浴と特浴室が設けてあり、どちらもエアコンが設置してあります。ご本人様の状態に合わせて、いつでも快適に入浴して頂けるようになっています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	常に空調管理に気をつけており、昼間でも仮眠や休息を取って頂けます。お休みになられる前は、なるべく排泄に関するお声をかけさせて頂き、安心して居室でも休んで頂けるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助に当たる際は、必ず飲み込んだかを確認し、追加になったり変更になった薬があった場合は、申し送りやカルテに記載し、スタッフ間でもれないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、新聞たたみや洗濯物たたみをし、役割作りに努めている。 音楽を聴いたり、一緒に歌ったりし、楽しみを少しでも持ってもらえるように日常的に取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地元のお祭りや中学校・保育園の運動会に参加させて頂いている。 気候の良い日は、頻りに外へ出たり、喫茶店へコーヒーを飲みに出掛けたりしている。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持っていないと不安になられる方もおられ、ご家族様の了承を得た上で、ご本人様自身で所持できるようになっている。 買物は希望する方は、スタッフ同行し行く事ができる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様に協力を頂き、電話のやりとりができるようになっている。 手紙に関しても、ご本人様に届いた郵便物はお渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様に快適に過ごして頂けるように、テーブルの配置等の環境づくりを心がけている。 空調管理にも配慮し、加湿器を使用したり、窓を開け、空気の入れ換えをこまめに行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内に、二人～三人掛けのソファを設置し、気の合う方と歓談できるように配慮したり、テレビなど全利用者が観やすいように席の配置を工夫したりしている。ご利用者様一人ひとりが、落ち着いて過ごして頂けるよう、日頃から把握すると共に、工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様に、落ち着いて穏やかに過ごして頂けるように、ベッドの配置やタンス等を置いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様の残存能力を活かして、安全に安心して毎日を過ごして頂けるように、段差をなくし、障害になる物を移動または撤去している。 ご本人様にとって何が良いのか、ご家族様に相談し検討している。		